

## 令和3年度 四国中央市総合教育会議議事録

【日時】 令和4年2月28日（月）午後1時30分～

【場所】 四国中央市役所5階大会議室

- 【次第】
- 1 開会
  - 2 市長あいさつ
  - 3 協議事項  
「学校 ICT による新しい学びについて」
  - 4 その他
  - 5 閉会

### 【出席者】

（構成員） 四国中央市長 篠原 実  
四国中央市教育委員会  
教育長 東 誠  
教育委員 篠原祥子（教育長職務代理者）  
教育委員 石川 卓  
教育委員 星川光代  
教育委員 石村義哲

（構成員以外） 市長部局  
高橋副市長  
安部総務部長  
教育委員会事務局  
眞鍋教育参与  
石川教育管理部長 森実教育指導部長  
宮下教育総務課長 窪田生涯学習課長  
合田文化・スポーツ振興課長 渡邊学校教育課長  
（事務局） 総務調整課 3名

【傍聴者】 なし

【報道機関】 1社

### 1 開会

（事務局）

只今より、令和3年度四国中央市総合教育会議を開会いたします。

なお、この会議は原則公開することとなっております。本日は傍聴を許可しておりますので、ご了承ください。

それでは、開会にあたりまして、篠原市長よりごあいさつをお願いします。

---

## 2 市長あいさつ

(市長)

本日はお忙しい中ご参集賜り誠にありがとうございます。本市では、50日ぶりに新型コロナウイルス感染症の感染者がゼロになり、少し安堵しております。もうすぐ春休みが始まりますから、公民館といった社会教育施設、子どもの遊ぶ広場、体育館など、公共施設の利用制限をどうしていくのか、庁内で話し合わなければならないと思っております。私は、一律に休止するというのは望ましくないと思っておりますが、四国全体では依然として多数の感染者が確認されていることから、愛媛県などとも相談が必要になると思います。本市は四国4県の県境に位置し、霧の森はまさにその中心にあり県外からも多くの観光客が訪れています。四国全体の感染状況が更に悪化した場合には、休館する決断をしなければならないだろうと危惧しております。

本日の議題は、学校 ICT による新しい学びについてです。委員の皆様には多様な意見を頂き、現場で役立てたいと思っております。ご助言をよろしくお願いします。

---

## 3 協議事項

【テーマ】学校 ICT による新しい学びについて

(市長)

協議事項について、教育長から説明をお願いします。

(教育長)

はじめに、市長さん、教育委員の皆さんにおかれましては、貴重なお時間をお取りいただきありがとうございました。

市長さんには日ごろから、本市教育行政の推進に多大なご理解とご支援を賜り、また、新型コロナウイルス感染症につきましても、常に学校・子ども達への影響をご心配いただき、様々な面でご助言やお心配りをいただいておりますことに感謝を申し上げます。

では、私から、本日のテーマに係る説明をさせていただきます。文部科学省が2019年12月に発表した「GIGA スクール構想」ですが、当初は、2023年度までに整備予定でしたが、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大を受けて状況が大きく変化し、2020年度内に整備を完了するという前倒しの提言がなされました。そのような中、当市におきましては、小学校児童・中学校生徒全員への「1人1台端末」配布と、ストレスなくインターネット上の情報やクラウドを利用できる「高速大容量の通信ネットワーク」の一体的な整備に、短期間で全力で取り組み、県内でもいち早く完了し、順調なスタートを切ることができました。

市長さんのご理解のもと、ハード面の設備ならびにソフトの導入・周辺機器の整備等々についてかなり充実することができましたこと、感謝申し上げます。

しかし、急激なハードの部分の整備がまず行われたという経緯がありますが、そこには、教職員が、使い方やソフトの活用の部分でなかなかついていけないのではないかと、という多くの声が聞こえてきました。皆さんも心配された部分ではないかと思えます。市として多額の予算を組んでいただき、また、市長さんの今期の公約におきましても、「子ども達の健やかな成長の実現」において、学校教育の充実として「GIGA スクール構想を活用した教育環境の充実」を挙げていただいておりますので、気を引き締めて取り組まなければならないという思いが、教育委員会、みんなの意識の中になりました。

具体的には、本年度の四国中央市の学校教育の重点に、「夢を見つけよう、GIGA しこちゅ〜」を掲げ、「授業改善」「教職員研修」「活用事例の充実・発展」を3本柱として取り組んでまいりました。その結果、愛媛県が実施しております「愛媛の教員が身に着けるべきICT活用スキルチェックに関する調査」におきましては、当市の小学校が県下1位、中学校が3位となり、研修や教職員の努力の成果が表れています。また、今年度、日本教育工学協会から「学校情報化優良校」として認定証を受けている学校が現在17校になっています。教員研修のための予算を組んでいただいたことや、各校において、苦勞をした面もあったと思えますが、先生方が大変前向きに積極的に取り組んでいただいたことに、私は頭の下がる思いでいます。

この後、教育委員会事務局からも、今年度のGIGAスクールへの具体的な実践を映像資料を基に報告させていただきますので、その状況を確認していただけるのではないかと思います。

保護者等への周知につきましては、活用に当たってのルール等を明記した保護者向け文書を市教委が作成し、配布するとともに、市のホームページや学校のホームページ上に「GIGA スクール構想」を公開してまいりました。また、長期の休業中に、児童生徒にタブレット端末を持ち帰ってもらい、家庭のWi-Fi環境への接続テストを実施しました。それらの取組の結果として、保護者からも理解をいただき、現在では、家庭

での Wi-Fi 環境については、99.4 パーセントのご家庭で整備をされております。事情により、環境が整っていない家庭には、通信機器を貸し出すなどの対応をしております。1 月から、オミクロン株の感染拡大に伴い、臨時休校となった学校や、自宅待機を余儀なくされた子ども達が増えましたが、持ち帰りの実証実験や A I 型学力向上支援ソフトを導入できておりましたので、オンラインビデオ会議システムを用いた健康観察や学習指導、ソフトを活用した学習を進めることができ、昨年度までのようにプリントを何枚も配布したり、同じような内容の家庭学習になったりせずに、学習保障という面でも役立てることができております。

それらの状況の中で、GIGA スクール元年の今年度において、四国中央市の子どもたちはとても高いレベルで活用できていると思います。学校教育が劇的に変わっています。

しかし、そのような劇的な変化を伴う、大変比重の重い学校教育への取組ですので、当然、順調なことばかりではなく、課題もあります。また、この令和の時代においては、一人一台端末環境は、「スタンダード」ではありますが、これから、いかに今までの教育と共存させていくかということも、重要な課題となってきます。

本日は、それらも含めて、1 年を過ぎた今年度の取組を総括しながら、市長さんのご理解や委員の皆さんにもご意見をいただき、来年度以降へつなげてまいりたいと考え、本日のテーマを「学校 ICT による新しい学びについて」としました。どうぞよろしくお願いいたします。

(学校教育課長)

それでは、「学校 ICT による新しい学びについて」述べさせていただきます。

～スライド視聴～

このように、学校 ICT の導入にあたり教員研修の充実を図ってまいりました。ICT 活用アドバイザーである放送大学の中川一史教授と愛光学園の和田誠教諭をお招きした研修会や、各校での研修など、授業を行うほとんどの教員に対して研修を行っております。

授業においては、児童が一人一台のクロームブックを持っている利点を生かした学習に取り組んでおります。例えば、作文や卒業文集の下書きをクロームブック上で推敲してから紙に清書したり、学級新聞を各自がクロームブックで作成したものを一つのパワーポイントにまとめるなど、積極的に活用しております。また、自宅でも利用できる「すららドリル」を導入し、コロナ禍における家庭学習にも役立っております。子どもたちからは、「楽しく学習できている」という声が最も多く聞かれております。

来年度以降も、教育環境の更なる充実に向けて取り組んでまいります。

(市長)

教育長から補足はありませんか。

(教育長)

私から、運用を開始してから1年、浮かび上がる課題について補足致します。先ほど申し上げました、情報教育認定校や認定資格者等、スキルアップした教員がたくさん見られますが、ICTの活用について、学校間や教科によって差があります。教員のスキルアップがカギですが、教員個々にはどうしても個人差が生じます。そのためにも、全体がスキルアップするような学校での継続した取組や、教育委員会が主体となった教員研修の場の設定などが必要だと考えています。

次に、今年度は、まず、使うことに慣れることを第一に取り組んできました。様々な形の授業での活用が増えました。これからは、子どもに確かな力を付けるために有効かどうかポイントとなると考えます。子ども自身が自分の課題に対して、どのように有効な活用をしていけるようになるのか等、情報活用能力の育成に立った授業実践を進める必要があると考えています。

もう一点は、学校教育課の体制についてです。現在、市内の児童生徒の一人1台端末、約6500台、その他の端末900台の保守、更新、修理等の対応を、学校教育課で行っていますが、これだけの台数ですので、毎日のように、市内全域からのPCの不具合やネットワーク運用上の対応、相談があります。また、学力テストのCBT化など、どんどん新しい取り組みが示される国や県の方針への対応、また、教職員の研修、ICT支援員との連絡調整、コロナ禍での活用など、従来の学校教育課の業務に加えたGIGAスクールに係る仕事内容と量は、限られた人員の中で、限界を超えた勤務が求められる状況となっております。これを是正する体制についても検討いただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(市長)

委員の皆さんからご意見はありませんか。

(篠原祥子委員)

新型コロナウイルス感染症の拡大で市長も大変だったと思います。ただ、昨日は感染者が0だったという嬉しい報告を聞いて少し安心いたしました。学校も感染症拡大防止のため、臨時休業の学校も出ましたが、リモートで健康観察をしたり、オンライン授業をしたりと「学びを止めない教育」がされ、子どもも保護者も安心したと思ひます。

GIGAスクール構想の運用で、四国中央市はクロームブックを取り入れ、先手先手で教育委員会が取り組みを進めてくれました。クロームブックが印刷しにくいという課題をエプソンとタイアップして、簡単に印刷が可能になった上、カラープリントも安

価で自由に印刷できるようになったのは、教育委員会の担当の方の努力の賜物だと思っております。学校訪問の際、校内の掲示物がカラフルで見やすいのはもちろんなんですが、学校全体が明るくなったような気がしました。

保護者には、これが当たり前だと思うことなく、四国中央市は他市に例をみないほど GIGA スクール構想の取り組みが積極的に進められて、国内でも先頭集団に位置している事を知ってほしいと思います。何より市長の理解の元、他市より進んだ ICT 機器の活用が出来ていることを感謝いたします。

ただ、子ども達は、インターネットや YouTube などを見たり、SNS で情報交換したりと、学習以外の分野に興味を持つこともありうるので、事件やトラブルに巻き込まれないように、先ほど課長からも説明のありました情報モラルの教育や、ICT の適切な使用について、しっかりと指導してほしいと思いました。

(石川卓委員)

春から夏にかけて学校訪問をさせていただいているのですが、昨年一番すごいなと思ったのが、低学年の児童がすらすらとタブレットを使っているのを見て大変驚きました。それを見て GIGA スクールが順調に進んでいるなど感じました。

以前、教育委員会の勉強会で EPSON の当市の GIGA スクール事例紹介ビデオを見せていただいたのですが、各方面から当市の GIGA スクール構想の推進が高く評価されていることに対し、他の委員さん共々大変誇らしく思っております。

そこでこれまでの GIGA スクールの 1 年間の実績を踏まえて、3 点ほど状況を教えていただきたいと思えます。

1 点目は、本構想が児童生徒にとって、魅力ある学校、行きたいと思う学校、居心地の良い学校になっているかということです。新型コロナウイルスの感染拡大に伴って GIGA スクール構想が一気に整備推進されたところですが、学校現場は先生や児童生徒がこの変化に順応しているのか、また、戸惑いはないのかという点です。児童生徒にとって魅力ある学校、行きたいと思う学校、居心地の良い学校になっているかが学校運営において大前提で大切にしなければならないところだと思います。また、さまざまな理由で学校に行けない児童生徒にも本構想の実施が少しでも前に向かって一步を踏み出すきっかけになってほしいと願っております。そこで GIGA スクール構想の実践にあたって、学校現場から聞かれる先生や児童生徒の率直な感想などをお聞かせいただけたらと思えます。

2 点目は個々の状況に応じた支援体制はどうなっているのかということです。GIGA スクール構想の基本理念には個別最適化された学びということが謳われております。当市ではこれらに対して先進的で独創的な取り組みを推進しているとお伺いしているところですが、個々の能力の違いに対してどのように取り組んでいるのか、また学校に来られない児童生徒や、学習につまずいている児童生徒にどのような支援が行われ

ているのかと言った点について、実践事例などがありましたらお聞かせ頂きたいと思  
います。

3点目は GIGA スクール構想の推進に対し人的な支援はどのようになっているかとい  
うことです。GIGA スクール構想により環境が大きく変化する中で、授業のあり方や、  
その準備の対応に先生方の不安や業務量の負担が相当大きいと推察します。そこでそ  
ういう面からも人的支援を強化し、教員を側面から支えていくことも考えていかなか  
てはならないと思いますが、そのような状況についてお考えをお聞かせください。

(学校教育課長)

楽しい学校、気持ちのよい学校になっているか、についてですが、子ども達にアン  
ケートを取っております。2月に「クロームブックを使った授業」について、市内の全  
ての小中学生に対してアンケートを実施し、回答は子ども達がクロームブックを使っ  
てフォームから直接入力をしています。入力された文章を、学年ごとにテキスト抽出  
して、どういった言葉の出現率が高いかを分析しましたので、画面で説明させていた  
だきます。小学1年生からの意見は、クロームブックでタイピング練習をして上手に  
打てるようになりたい、すららドリルで金メダルを取れてよかった、2年生からは、  
先生の説明が分かりやすくて色々なことができて楽しかった、勉強がしなくなった、  
3年生からは、クロームブックでタイピングが速くできるようになった、今までより  
も授業や休み時間が楽しくなった、4年生からは、タイピングの習得ができてよかつ  
た、授業がとても楽しくなった、5年生からは、目あてやまとめを作るときにテキス  
トの色などを変えることができるのでとても分かりやすかった、学習したものを印刷  
できるのでノートに貼ることもできてよかった、6年生からは、パソコンの使い方が  
よく分かった、場所をあまり取らずに色々な教科を学習することができるのでよいと  
思う、などの意見がありました。また、中学1年生からは、クロームブックの授業はと  
ても楽しかった、すららドリルの問題は難しめでよい勉強になった、2年生からは、  
クラスルーム、ロイロノートなどを使うと意見の発信がしやすかった、デジタル教科  
書を使って英語のリスニングをしたりインターネットを使って調べたりするのが便利  
だと思った、3年生からは、より深く授業を受けることができたと感じる、分から  
ない事があればすぐ検索できるので分からないまま放っておくことがなくなった、プ  
レゼンテーション能力や内容を分かりやすくまとめる技術が身に付いたと思う、など  
の意見がありましたが、いずれの学年にしても、一番出現率が高かった言葉は「楽し  
い」でした。このように、クロームブックの導入が、子ども達の楽しい授業に結びつ  
いていられると思われま。また、教員からのアンケート回答では、授業の際に顔を上げて  
参加しようとする児童生徒が増えた、個々の理解度に合わせて学習を進めることが  
できるのでグループ学習が増えた、学習に対する興味関心が高まった、写真や動画の活  
用で調べ学習がやりやすくなった、情報の共有や視覚的な支援が短時間で可能になっ

た、感染症対策を行いながら意見交換ができる、一人ひとりの意見が確実に見える、との前向きな意見が多く出ております。ただ、石川委員のご指摘のとおり、ICTによる大きな波に戸惑いや不安を感じている教員も一定数おります。ICT 機器の操作中の不具合、生徒指導上のトラブルの対応などについて不安を覚える教員に対しては、しっかりと支援をしていくことが大切だと考えております。

続きまして、個別最適化された学びについてですが、先ほどの授業活用事例にありましたように、一人ひとりの課題を主体的に学ぶ活動、自分のレベルに合わせて学びを深めていく活動など、個別最適化された学びと ICT というのは親和性が高いと考えております。

最後に、人的支援についてですが、週一回は必ず学校に行き、教員に対する個別のサポートを行っております。情報化優良校が増えてきているのは、それらの成果の表れだと思っております。

(星川光代委員)

今、渡邊課長から教育委員会が他の自治体に負けないくらいの取り組みをし、ICT が効果的に使うことができるようにしっかりと学校を支援して頂いていることの説明がありました。本当にありがとうございます。

また各学年にあったソフト、例えばすららドリルやAI 型学習ソフトを使用し、中学校ではプログラミング教材を使用した大会に参加するなど、数年前には考えられないようなことが授業が展開されています。小学校からも先ほどの渡邊課長がプレゼンされていたような内容が記載されたお便りが配付されていて、保護者も読ませてもらっているのですが、早く実際の授業参観でお家の方がびっくりするようなギャップを感じてもらえる状況になればいいなと思っております。私の子どもも今までパソコンを使ったことがないため心配していたのですが、クロームブックを家に持ち帰って、何の迷いもなくオンライン授業に取り組んだり、日々の健康観察の手続きをしているので、学校でしっかりと基本動作を教えて頂いているからこそ自由自在に扱えることができるのだと感心しました。それぞれの教科の特性や必要性に応じて、デジタルとアナログの使い分けをすることが可能ですので、是非、このすばらしい環境を最大限に活用しながら、今だからこそしておかなければいけないモラル教育を含めた必要な指導支援も、引き続きしっかりとお願いしたいと思います。

(石村義哲委員)

GIGA スクール構想が立ち上がり、コロナ禍の影響も重なり ICT の環境整備も一気に加速したように感じますが、同時に先生方への負担も相当なものになってきていると思います。学校訪問で実際に子ども達が授業でクロームブックを使用しているのを見たり、家で子どもが使用している様な学校外で使用している事、研修会や講演で聞く ICT の活用方法や先生方の事例発表から、1人1台端末の整備と ICT の活用が子ども達



の学びの可能性を大きく広げる事は想像できるところです。しかし、先ほど申しあげた通り先生方の負担も増えていると思いますので、教職員の働き方改革についてどのようにお考えかお尋ねします。

また、校務での業務について ICT を活用して業務の改善が出来ないか、業務の効率化をどのように進めていくべきか、についても併せてお尋ねします。

(教育長)

「ICTを導入したことによる、教職員の負担の増加をどのように考えるか」というお尋ねについて、私からお答えいたします。

まず、教職員の業務を支援する「校務支援システム」が導入されておりますので、成績処理や出席簿、通知表や指導要録の作成、授業時数管理、また児童生徒等の名前、住所、生年月日等、基本的なデータの連動により、入学者名簿や卒業者名簿の作成、クラス編成、健康診断票の管理などの保健系も含めた大幅な業務改善が図られています。また、先ほどの具体的実践の紹介にもありましたが、学校では、児童生徒や保護者、教職員に対するアンケート調査が多岐にわたり行われますが、アンケート機能を使って作成し、回答してもらうことで、大変楽に集計ができグラフ化をすることもできるなど、大幅な時間短縮・効率化が図られています。つい最近の例で申し上げますと、今年度の小学5年生と中学2年生を対象とした愛媛県の学力診断テストが、1月にパソコンを使用した試験、いわゆる CBT 方式により行われましたが、その調査結果、個人成績も、電子データで返却することになりました。子ども達が家に持ち帰ったクロームブックの画面上で、解答内容、正しかったのか間違えていたのか、得点や模範解答、また設問番号をタップすると、問題文が別ウインドウで開きますし、総合得点や、平均点等も確認できるようになっています。これまでは、これら全てを個々に印刷し配布しておりましたので、大変な時間削減になっております。教職員間においても、メッセージ機能を活用することにより、会議や打ち合わせの時間の短縮、ペーパーレス化による負担の軽減などが図られています。

今、一部の例を申し上げますが、このように、ICT を有効に活用することにより、教職員の業務負担の軽減が大きく図られています。ただ、先ほどから何度も話に出ておりますように、私のように年齢を重ねた者は、新しいものを取り入れることに抵抗があったり、マスターをするのに時間がかかったりして、億劫になりやすいところがあります。教職員によっては、ICT の導入によって、ストレスや苦労があった方もいるだろうと思います。それらの状況も想定しながら、教育委員会では、学校への積極的な支援や、活用についての教職員研修の実施、また、市内の教員が誰でも共有できるように、活用事例の紹介や教材のデータベース化を図り、教職員の負担軽減に努めているところです。ただ重要なのは、学校においても一人ひとりの ICT 活用能力を上げるだけでなく、学校全体で対応力を強化し、教職員の指導力向上を図っていくことが

大事だと思っています。各校の教務主任や研修主任、情報教育主任を中心にリーダー研修の場を設け、リーダーの育成を図っておりますが、管理職のリーダーシップのもとに、学校が一丸となって取り組む戦略的な学校経営が必要であると思っておりますので、助言と支援を続けてまいります。

(市長)

学校 ICT が導入されて 2 年ぐらい経ちますが、困ったことはないですか？

(教育長)

持ち帰りが増えたため、故障台数も増加しており、取扱いの指導も必要となっております。学力につながるものかどうかは今後精査していきたいと考えています。また、情報モラル教育からデジタルシチズンシップ教育も必要になると考えています。

(星川光代委員)

小中学校で使用するデジタル教科書は令和 6 年度に本格的に導入されると聞いていますが、現在も長女の通う小学校では算数の教科書がお試しで配置されているようです。これから導入する教科も増えるかと思いますが、どうしても視力の低下や、正しい姿勢の維持について、親として心配があります。GIGA スクール構想の整備の中で、大型モニターを各教室に設置して頂いたり、各自の端末だけでなく必要な周辺機器もしっかり導入されていることは大変すばらしいし、ありがたいことです。ただ、クロームブックは慣れてくるとスマホと同じで、ダラダラと長時間見たり、寝転がって見たりして姿勢を悪くしたりだとか、自分にあった専用ドリルや作品作りにのめり込んでしまい、休憩せずに長時間使ってしまう子もいるかと思っています。学校では、端末との距離を確保したり、ある程度の時間が経てば目を休ませたり、授業の合間で体を動かすなど先生方が気にかけて頂いているかと思いますが、先生の目が届かない家庭での使用方法については、保護者の理解や協力によって大きな差が出てくるかと思っておりますのでその辺りのフォローもお願いしたいと思っています。

(市長)

議会でもタブレットを活用しており、時間や場所にとらわれず利用することができます。それぞれが違う場所で、同じものを共有できるところに意味があると思います。今の子ども達は IT 時代に生まれ、保護者の方が理解していくのが大変ではないでしょうか。学校でも、IT に強い若い教員が増えてきていると思っています。

(教育長)

デジタルに強い若い教員の良い所とベテラン教員の良い所の融合が必要と思っています。

(石村義哲委員)

教科書のデジタル化や、1 人 1 台端末の整備の状況から、子ども達の健康問題が生じてくるのは避けて通れない事だと思っておりますが、デジタル教科書のメリットもたくさん

あると思います。例えば、動画と音声のリンク、書き込みや消去が簡単にできる、と言う様な機能があるそうです。また、読み上げやルビを自動で振って読みやすくする機能などは、障害のある子や読みが得意でない子ども達の助けにもなっているようです。このようなデジタル教科書のメリットも多くありますが、やはり紙の教科書や資料の良さもあると思いますので、アナログとデジタル、それぞれの良さを生かした教育の継続をお願いしたいと思います。

また、私たち教育委員の重要な役割の1つ、教科書採択にも関わってきますが、QRコードを採用している教科書会社が出てきたり、今後は令和6年度にどれくらいデジタル教科書に切り替わっていくのかも動向を見極めつつ、デジタル教科書の内容も検討していかなければいけないと思っています。デジタル教科書に切り替わっていくと同時に現状では「デジタル教科書は有償」という事なので、紙の教科書と同様、無償化という事も国の方で検討をしていただかないと、全ての子ども達が使える状況にはならないと思いますので、今後の動向を注視していきたいと思っています。

(石川卓委員)

国の方では全国学力調査をコンピュータ上で行う CBT システムを令和6年度より導入する方向で進んでいるとお聞きしております。また、1月に実施された県の学力調査も小学5年生と中学2年生が CBT システムでテストを受けたとの話が、昨日の愛媛新聞にも掲載されておりました。学力調査をコンピュータで行うにあたっては、個人情報である成績や結果の取り扱いについて、情報が流出し悪用されないような厳格なセキュリティの構築や、カンニング対策、机間指導などの運用のルール作りが不可欠となると思います。一方で、個人的には ICT 化が加速する中で、従来から学習の大宗を担ってきた、書いて学ぶ学習形態も私たちには意義あることだと思っていますので、疎かにしてほしくないと思っています。デジタルとアナログの良い点を融合してハイブリットな活用を目指してもらいたいなと考えています。

また、今回、多額の経費を費やして設備を導入したわけですが、ICT を活用した授業を継続するにあたっては、5年後には機器の更新作業が避けて通れないこととなります。次回の機器更新については国が費用を負担するというような話は不確定であり、市費をもって更新費用を負担しなければならないこととなるかもしれません。

今後、様々な教育関連の新しいハードやソフトが次々と開発されてくると思いますけれども、厳しい財源のなかではありますが、その時代に即した端末やソフトの導入を行い、児童生徒の学びをより良い方向に向けて発展、継続していけるよう、財源確保と併せて取り組んでいただきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

(市長)

石川委員が言われたとおり、それぞれ自治体での5年後の機器の更新費用について

は膨大な金額が予想されるため、国の予算措置を求めているところです。

(篠原祥子委員)

今日は教育委員からいろいろな意見が出ましたが、学校教育の質の向上と特色ある教育活動の充実にこれからも積極的に取り組んでほしいと思います。特に学校での活用と同時に、不登校の児童、生徒にも ICT をうまく活用して、一人一人に寄り添った教育をぜひ、お願いしたいと思います。去年、中学校運動会に行った時、不登校の生徒たちにオンラインで運動会の様子を生徒が LIVE 配信していました。運動会を家で見ていた生徒には、先生と友達のあったかな気持ちが伝わったのではないかと、ほのぼのとした気持ちになりました。これからは、学校、家庭、地域が連帯して、子ども達一人ひとりにあったカリキュラムを行ってほしいです。何といたっても学校は人間同士のコミュニケーションが大切な場だと思いますので、大切な時間が過ごせるよう、不登校の児童、生徒が元気に登校出来ることを期待します。

GIGA スクール構想を進めていくには多額の経費がかかると思います。市長の力強い支えと大いなる支援があってこそ前に進めると思いますので、どうかこれからもよろしく願いいたします。

(石川卓委員)

当市では、今年度から本格運用が始まった GIGA スクール構想を強力に推進していく方策として、「夢を見つけよう！GIGA しこちゅ〜」というキャッチフレーズを掲げていると聞いています。これを合言葉に教職員が一丸となって、すべての児童生徒たちが変化の激しい社会を生き抜く力を育む、未来への挑戦ともいえる ICT を活用した新しい教育に、取り組んでいると認識しております。また、整備した ICT 機器を教育のツールとして有効に活用するための 3 つの方策もキャッチフレーズとして設定し、わかる授業、楽しい授業の実践に取り組んでいると伺っております。GIGA スクールの実践においては細部にあっては、各学校実情に合わせたカラーを出していくことも必要ですが、基本的に進むべき方向や目指すところは市内すべての学校で共有し、各学校が同じ目線で同じ方向を向いて進めることが大切だと思います。

そこで、今年度の実践から学んだことを次年度に向けてさらなる高みを目指すため、次年度に重点的に実践していくための令和 4 年度のキャッチフレーズを掲げ、各学校の意識の共有を図って一丸となって GIGA スクール構想の推進を目指していけばいいんじゃないかと思います。このことについては先の校長会でもお話があったとお聞きしていますがその後、キャッチフレーズが決まったのか、決まったのであればどのような思いを込めているのかなどをお聞かせいただければと思います。

(学校教育課長)

キャッチフレーズ案を作成しておりますので、配布します。

～資料配布～

石川委員のおっしゃるとおり、一丸となって同じ方向に進むというのは本当に大切なことだと思っております。令和4年度においては、「つながる・ひろがる新しい学び、未来への挑戦-子どもたちの夢！可能性は無限大！-」のキャッチフレーズをご提案します。これは、校長会及び学校情報推進委員会を通じて各校から募集したものを基に作成したものです。

「つながる・ひろがる」については、それぞれの学校で創出した授業へつながり、広がっていく取組みを進めていきます。令和4年度は ICT を活用した未来への挑戦を市内の学校間で共有し、GIGA しこちゅ〜の取組みを更に拡充してまいります。

副題の「子どもたちの夢！可能性は無限大！」については、子どもたち一人ひとりの無限の可能性と夢の実現に向け、個別最適化された学びに AI ドリルを積極的に活用することで取り組んでまいります。

(篠原祥子委員)

もっと、コンパクトでもいいような気がします。この言葉一つ一つに先生方の思いが伝わってきますので、これでよいと思います。このキャッチフレーズがあることで、教員が同じ方向を見据えて一体となって、これからもっともっと更なる高みを目指してほしいと思います。

(星川光代委員)

私も、子どもたちが楽しく、ワクワクするような学校生活を送れる良いキャッチフレーズだと思います。是非、「GIGA」と言えば「四国中央市」と当市の名前が返ってくるよう期待しています。

(学校教育課長)

それでは、反対の意見はないようですので、「つながる・ひろがる新しい学び、未来への挑戦-子どもたちの夢！可能性は無限大！-」に決定します。このキャッチフレーズの下、教育指導部が一丸となって学校や児童・生徒の支援を進めてまいります。

(篠原祥子委員)

放送大学の中川教授が、日本の教員は優秀であるからこそ、これまで ICT がなくても素晴らしい授業が出来てきたと仰っていました。以前、四国中央市に電子黒板が導入された時、教育委員会で秋田の学校に研修に行きましたが、電子黒板すら利用せず、子ども達の学習への興味を深め、楽しく分かりやすい授業がされていました。ICT 導入という時代変化の中で、これまでの教育とベストミックスという形で教育を展開してほしいと思います。ICT の世界には限りない可能性があります。去年、学校訪問で、ある中学校が、ブラジルに住んでいる日本人とオンラインで交信していて驚いたのですが、時差の勉強ということでした。生徒にとって素晴らしい経験になったと思います。

また、市議会の教育厚生委員会が GIGA スクール構想の勉強会を開き、ある市議の方が「時代が変わった。先生たちもすごい。」と驚かされていて、すごく褒めてくださいま

した。ICT のいいところ取りをして、これまで先生方が積み上げてきた素晴らしい授業に、他市の先進事例も参考にして、四国中央市の教育を一層進めてほしいと思います。何度も言うようですが、市長の支え、行政も連帯していただいて、これからも四国中央市の教育をお願いしたいと思います。

(市長)

高度無線環境整備事業により市内全域において高速・大容量通信が可能になります。GIGA スクールの学校現場だけでなく、市民においてもオンライン化は時間を短縮するツールとなりうるので、今後もより一層、ICT の活用が必要だと考えています。

(教育長)

今後の ICT 活用について市長さんからご助言をいただきましたし、委員のみなさんから来年度の取組のキャッチフレーズについてもご意見をいただきましたので、その具現化に向けて、来年度の計画・実践に努めてまいりたいと思います。

その中で、特に、導入について予算化していただいております「A I 型学力向上支援ソフト」の活用により、さらなる個別最適化された効果的な学びの実践を目指してまいります。もう一点は、情報モラル教育からデジタルシチズンシップ教育への発展に向けて取り組んでまいります。

これから 10 年先、今の子どもたちが社会人となる時は、今よりももっと予測不可能な社会になるだろうと思われれます。情報活用能力は、そんな時代を生き抜くための必要不可欠な力になると思っております。将来を背負って立つ子どもたちに、そのような力をつけるため、教育委員会と学校が密に連携をとりながら、これからも GIGA スクール構想を着実に推進してまいりたいと考えています。

今後も、市長さんと教育委員会が十分な意思疎通を図り、現代の教育課題やあるべき姿を皆様と議論し、教育行政を進めてまいりたいと思いますので、今後とも、ご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

(市長)

教育を通して子どもたちが生き抜いていく力をつけ、たくましく生きてほしいと思っています。

それでは意見も出尽くしたようですので、これで令和 3 年度の総合教育会議を終了します。本日は大変ご苦労様でした。ありがとうございました。

---

#### 4. 閉会

【午後 2 時 45 分閉会】

署 名

署 名